

山田みやこの活動報告

令和5年11月18日(土)

第10回生活困窮者自立支援全国研究交流会（オンライン）

人と人が向き合う いのち・くらし・せいかつ

ーなんとかなる楽しみながら地域共生社会づくりー

分科会① 女性と生活困窮者支援

～包括的な支援と連携を考える～

コロナ禍により女性が抱える困難が顕在化されたことを受け、売春防止法に代わり、新法「困難な問題を抱える女性への支援のあり方に関する法律」が設立した。

日本では女性の人権が未確立で、賃金格差や政策決定に関与出来ない現状がある中、北海道4団体の実践発表を通して、移住喪失、行き場のない女性への切れ目のない支援について話し合った。

今後もこのテーマを継続して欲しいとの要望が寄せられた。

講師 特定非営利活動法人 女のスペース・おん 近藤恵子さん

女性が抱える重層的な困難は、疾病・暴力・貧困。そして日本の女性たちは生存すら保障されていない。

成人女性の4人に1人がDV被害者。若年層（16歳～24歳）の約4人に1人が性暴力被害者。公的機関の支援力が劣化している。

コロナ禍で若い女性の自殺が増加。2011年東日本大震災であらわになった性暴力被害者の実態。

コロナ禍で可視化された女性の困難

民間シェルターの取り組み

支援理念は当事者主義、エンパワーメント、官民・地域・国境を超える支援連携。ワンストップサービス。

困難な問題を抱える女性の支援に関する法律

2024年4月施行

売春防止法に代わる新たな女性支援制度

- ・保護・指導から回復支援・ジェンダー平等へ
- ・当事者中心主義、措置から権利行使へ
- ・民間支援団体との協働
- ・包括的継続的支援

北海道から女性支援のネットワーク型協働モデルを作りあげていく。

講師 おもちゃライブラリー+子ども食堂+夜間一時避難シェルター運営 小池さや香さん

女性って結婚すると働けない？経済的自立が出来ていないと、いざという時何も出来ない。

ひとり親家庭への支援を始める

子ども食堂・フードパントリー・学童用品支援・フードドライブ・オムツドネーション・生理用品集め

子どもを助ける子ども支援

子どもを全力で育てようとするママの支援も同時進行

つまづく前にSOSが出せる・定期的に顔を見ながらの相談・物資などが渡せる関係性（居場所づくり）

ひと・もの・お金を集める事が課題

講師 特定非営利活動法人 女性サポートAsyl「あじーる」
事務局長 波田地利子さん

札幌市を拠点に、行き場を失った女性や母子に一時的な居場所（シェルター）を提供し、尊厳ある生活の債権をサポートする団体

- ・札幌市生活困窮者自立支援事業の委託運営
- ・利用者の半数が29歳以下、母子家庭が4分の1を占める
- ・直前までいた場所は「家族やパートナーと同居」が1位

孤立させないために

- ・平日日中に、利用者や卒業生が自由に滞在できる居場所として、留守番ボランティア常駐
- ・社会体験事業、季節のイベント会場として使う
- ・お昼ごはんをみんなで食べる
- ・編み物やアクセサリーづくりをして、フリーマーケットで販売する

2020年度利用者の約半分が再困窮に該当する
退去後に行く手が阻まれることが大きな課題

講師 神奈川県立保健福祉大学 吉中季子さん
女性生活困窮者支援 ー包括的な支援と連携を考えるー

1. 女性の貧困と労働

- ・働く女性の2人に1人が非正規
- ・非正規女性の年収 200.1万円
- ・単身女性の貧困率 20歳～64歳 29.0%
65歳以上 46.2%
- ・シングルマザー家庭の様相
2世帯に1世帯が貧困状態
平均年収 236万円
- ・単身女性の4人に1人が貧困状態
失業不安、得られない社会保障、描けない将来の生活ビジョン
女性の経済力の低下とDVの温床

2. 「行き場のない」「住居を失った」女性は誰か？「ホームレス」なのか？

日本のホームレスの定義は路上生活者に限定

路上生活者以外は広義の「ホームレス」

たとえば 福祉施設入所者・宿泊施設入居者・DV被害者・ネットカフェ滞在者
住み込み就労・車中生活者

↓

これらの問題は見えにくい

3. 女性の生活困窮者の支援

母子家庭の住居喪失⇒母子生活支援施設

DV被害を受け家を出る者⇒DV防止法

単身女子⇒売春防止法・生活保護法

女性を含む家族の生活困窮者⇒生活保護法

生活困窮者自立支援法 2013年成立

女性の生活困窮者の支援は施策が多くあること（縦割り）の弊害が大きい。入所施設は単身の入居がほとんど。世帯を包摂して支援する施設は母子世帯のみ。親子・兄弟・夫婦などで住むところを失う場合は、生活保護による住居施設が中心となる。

※新たな法律「困難な問題を抱える女性の支援に関する法律」2024年施行

女性をめぐる生活困窮、性暴力、性犯罪被害、家庭関係破綻など、複雑・多様・復号化「孤独・孤立対策」といった視点も含め、新たな女性支援へ期待する。